



— 本県における就職状況は好転 —

昭和31年における就職状況は、数量景気といわれる戦後最高の好景気の影響を受けて、各事業所から求人数が急激に増加し、就職者は39,400名にのぼり、新規求職者数55,876名に対し就職率は実に70.5%(30年64.5%)に達している。県職業安定課において、県下の職業安定所の窓口を通じて調査したところによると、求人数や就職者数の増加に伴って、失業保険金の受給者も28,381名で30年に比べ、16,137名が減少しており、デフレ政策の深刻

な影響を克服して中小企業の経営も漸く正常化されてきたことがわかる。しかし農家や中小企業における家族従業員の中には失業者の潜在的存在を見逃すことはできないだろう。この「見えざる失業者」や「不完全就業者」を吸収するにはわが国の就業構造を根本的に改革して、計画的な生産力の増強、金融の緩和、輸出の増大などの諸施策を講じなければならないと思う(N生)

職業安定所の窓口状況 (31年1月～12月) (県職業安定課調)

項目 月別	新規 求職者数	新規 求人数	紹介数	就職数	失業保険金受給者実人員			失業保険金支給額 (一般)		
					計	男	女	計	男	女
1月	10,278	7,978	4,985	3,182	2,503	1,702	801	13,570,603	10,877,768	2,692,835
2月	4,108	4,033	6,688	4,827	2,269	1,558	711	11,793,585	9,523,775	2,269,810
3月	3,976	3,269	5,359	4,579	2,231	1,513	718	12,476,191	9,924,866	2,551,325
4月	4,068	3,935	3,836	3,057	2,195	1,467	728	11,691,801	9,164,301	2,527,500
5月	4,467	3,965	3,538	2,963	2,385	1,589	796	14,263,122	10,948,412	3,314,710
6月	4,312	3,733	3,877	3,246	2,426	1,595	831	13,036,571	9,957,156	3,079,415
7月	4,513	3,655	3,619	2,769	2,522	1,637	885	14,702,520	11,139,630	3,562,890
8月	5,144	5,274	4,278	3,140	2,588	1,647	941	15,166,119	11,434,734	3,731,385
9月	3,995	3,804	3,826	3,067	2,490	1,590	900	13,581,300	10,243,618	3,337,682
10月	3,970	3,879	3,880	3,152	2,378	1,504	874	14,025,110	10,540,575	3,484,535
11月	3,650	3,643	3,324	2,769	2,241	1,398	843	16,611,123	12,331,778	4,279,345
12月	3,395	3,116	3,067	2,649	2,153	1,317	836	15,926,683	11,654,930	4,271,753
計	55,876	50,284	50,277	39,400	28,381	18,517	9,864	166,844,728	127,741,540	39,103,188
30年	44,661	33,077	35,471	28,878	44,518	31,554	12,964	227,660,114	186,262,355	41,397,759
比較	11,215	17,207	14,806	10,522	-16,137	-13,037	-3,100	-60,815,386	-58,520,815	-2,294,571

(統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)



【乗数効果】 近代経済学用の用語。乗数とは一般に、投資の増加分がその何倍の所得の増加をもたらすかといふ効果をいうが、単にこのような投資の増加と所得の増加だけでなく、広く経済的な一変数の変化が、その増量を構成要素とする他の経済的乗数に与える限界効果を設定する場合に用いられる。

【原単位計算】 原単位とは生産に使用した物量の単位

のことで、工場における製造過程の各生産要素について、たとえば数量、台数、時間などの単位をつくるのにどれだけいるかを単位別に計算することをいう。原単位が計算できればその生産物のコストがわかるわけで、原価計算の基礎計算ともなっている。企業の合理化、生産能力の測定、コストの引下げなどのために行われる。

編 集 室

6月ともなれば、日の光も急に強くなり、海の色もいよいよ青く、山の若葉も一段と緑を増し、あやめも若川に若鮎躍る溪流にと遠近の天狗たちが釣りの餌を競っており、私たちが清新の気みなぎる遅しさを感ずるようになる。

しかし農家は今麦の刈取りや田植で猫の手も借りたほどの忙しさである。秋の実りを夢見ながら早乙女たちが、紺紵や赤だすきに身を固めてにぎやかな歌声を、かけ声につて次々と美しい緑の線を織りなして行く風景は実に田園情緒に溢れている。表紙の写真は

真壁地方の田植風景である。

◎5月27, 28日には袋田、29, 30日には筑波でそれぞれ統計実務講習会を開催したが、今年は市町村関係者の参加が非常に多く両地区合せて実に160名に達した。特に日本統計界の権威者である森数樹先生の熱誠溢れる講演と産業分類の指導講習は事業所調査を控えて誠に大きな成果を取めたようである。

「湯の宿に河鹿聞きつつ友と酌む」

「老鶯や筑波はすでに暮れにけり」

◎印刷の関係で本誌の発行が非常に遅れて、皆様に御迷惑をおかけして参りましたが、5, 6月号は合併号として来月から順調に戻す予定ですから御了承願います。

